ゴシキサクラ

錦窠植物図説

羽州桧山の庄に中山の曽光寺の境内にある様にいうまし名木あり只一株の木に花の色を交ふ頃あり桜色中にも多し白きあり薄紅あり濃き紅ひあり扨桜色といふ中に分ちある故に是を五色桜といふ其香紛々として七八町前より風のさそひ来て春気ゆふくなる心地して旅を忘れ茲に日をくらしぬ本堂をあみなれば御たけ壹丈八分の滔陰提金の薬師瑠璃光如来にてつくらせ給ふいと有りがたく殊勝なる尊像なり縁起由来ありといへとも之を略す



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

コ

コマツナギザクラ

錦窠植物図説

[樹品] 洛青連宮境内に駒留樹とてあり 童弁なり

中輪にて色大白花瓣廣く厚し 莖太く荅の時ハ少しあるみあり

駒留、駒繋同意なり一物歟

コマツナギ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

コザクラ

錦窠植物図説

【桜品】山桜の一種なり薄色なり八重ヒガンに等しく花密(コヾナリ)て咲

鎧に小桜威(コザクラヲドシ)と云あり此花色こかたどりて名付なるなり

三園云小桜威は小桜革裏にて威しなる鎧なり小桜の色こかた

どりて名付なるとハぬなり

【三草木志】紅花の彼岸桜深紅なるあじゐ白花にヒガンサクラハ半開

なり紅は満開なる莖長く白らしサレ遅く開く花少なり

紅の一二重

コザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号　特7-66
ガラス使用

コ

ゴシヨサクラ　五所サクラ

錦葉植物図説

[illegible]千葉大輪なり一苞より五英一處に集る仍て名く甚だ美なり余括りの類殊花形桐各にも似たり

ゴシヨサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

紅背樓

錦窠植物図説

冬ニサクラの花の背紅ニ面形紅色ちりと云花葉冬樓ニ異なり

しなし花色別なるのみ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

コ

コヲバイザクラ　紅梅桜　ウスハナザクラ

錦葉植物図説

薄花桜　クラマヤマノ　ウズザクラとも云も見えなりと形梅に似たり

浮紅

コヲバイザクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

コギクサクラ

錦葉桂楊用説

○清明比より開く

「古今要覧」小菊樓花の形容を以て小菊と呼べり重瓣白色葩きに深く莖葉ともに緑色なり又一種粉紅のものあり通して小菊樓と稱せり佐藤成裕曰樹母菊の三花手掬に大小花の形状を賞美して百千鳥と称せり然れども葉多く出て花甚だ少く見るに足ぶれ是元来名目なくして接中の異花なりといへり

コギクサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

コ

コデアリザクラ

錦葉植

花名集 色赤ミありてうるはしく小輪花薄く鬱く咲本ミ花ありて

くすまく

コデアリ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ウエ

# ウエモンサクラ

錦窠植物図説

花名集 志べ長く色有てさくして下ある よき花とも云へり見事 [illegible]

古今要覧稿 武蔵國豊島郡柏木村に立所なり楊貴妃の変種と思はるれども莖の下にむのみを異なりとは

右衛門様の由来

柳さの様は長谷寺中五十人の佐源頼季朝臣勲功の賞に此地を給らせ給ひこゝに御館をいとなみ住せ給ひし比家門繁栄木の兆を見せまと御手はかゝる一重の様を植させられしと其花は重多なりしかゝ咲出けり見まゝしかゝ深く此樹をめて其後給ひ春ことに花の宴遊ことに催されける其後百六十年餘歳をへて江戸民部大輔頼介當寺再興のみを包るかきをあらし一重の碑をたゝ弘安の兵火に焼まて霜樹なるかゝ[illegible]かゝ年かへりてひとへさらに花をみるかゝ[illegible]葉なるとおもの此はんもれ[illegible]天正のころ野火の為に伽藍は

ウエモン

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

一時の烏有とあるを祝融の如しもしくしたが此木は差なりなり
豆子保の姫に至て四百餘歳の旧樹をのつかり雨露の恵を辭
すといへども又いこれへ弘安の往古の如し　今に至て佐殿の
梯子とゝめ源家に南山の壽を獻ず寛永年中春日の河局
屋舎千代姫君稱寓山法再興営の時此花奉りしにより今尚
法御殿へさゝらるゝ外一枝をたゝ折るてもゆゑなきす佐殿と
申は河内守源頼信公の法子八幡太郎義家公なるに御叔父
君為ゆゑ也
文化十一甲戌年三月　圓照寺現住隆晃代

エモンザクラ
外辨廣く長く内辨狹く短く心細葩あり
錦窠植物図説

エモンザクラ

ヱボシザクラ

錦窠植物図説

早晩の二種あり早きハ三月上旬に開て花の時に葉なし晩きハ三月下旬に開く晩花ハ少し大なり半開にして散る瓣長くたて互ぼしの形に似たり

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

エ

エドザクラ　江戸桜　錦巣植物図説

[桜品]八重まして莖長く英垂る尤相谷の八重又則相谷の変化なり
色ハ淡し重子ハ相谷より薄し盛過てちらぬ枝々志閑みつく全躰の
花ハ諸花の中の冨貴なるものなり開くを遅し相谷の後に咲くなり

[三草木志]江戸サクラ　三月下旬水紅色後白

○七重八重

[花名集]八重の小輪色ありて多くして花多く俗

エトサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

エド ホウリンジ 江戸法輪寺

錦窠植物図説

[桃園] 法輪寺に似てたゆたかなり重ね厚きこと江戸より深し葉も亦厚し大にして美なり武州法輪寺より出る木なり又別に法善寺泰山府君と云ものありと云へとも左にあらず即ち此江戸法輪寺なり別種にあらず一物二名なり但江戸様に大低似たれども江戸は花瓣うすし江戸法輪寺に深く熱豆宮なり



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66
ガラス使用

エ

エンメイサクラ 延命桜

[古今要覧] 佐藤成裕曰此種奥州堺の明神の邊より北の方大低此風の花多しこれ古へ賞美せし花なるや奥州白河関山縁記に云く櫻岡ハ鹿島の北、當り旧地なり昔ハ奥州よりの海道これ櫻の名所なり往来の旅人ハ詩や歌を残せし陸奥の櫻の岡の櫻こそなる櫻あれハ咲さくらあり宗祇も亦此類の句あり或人のいはく佐藤の櫻ハ皆奥州の種なりと今佐渡事畧を見るに植物ハ櫻孤サしと云へり又延命桜の一種変種なるをもつて変種延命と稱し頃に附

エンメイ

エチゼンザクラ

古今要覧 越前板称にあり莖ゝ苞相對して必らず並花ゆり五瓣にして花蘂にまた小葩を出して旗板のこゝろし日を経て粉紅に染む即照君樣の一種にして樣中の異品なり

エチゼン

ヱ

エトロフザクラ

古今要覧 五とろふ様四月末花を開く軍辨白色葉鋸歯
ふかし山様の一種なりけ　ある人の曰蝦夷の人の矢は此様の
一年は生長しなる條まで作れるものありと以へり

エトロフ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

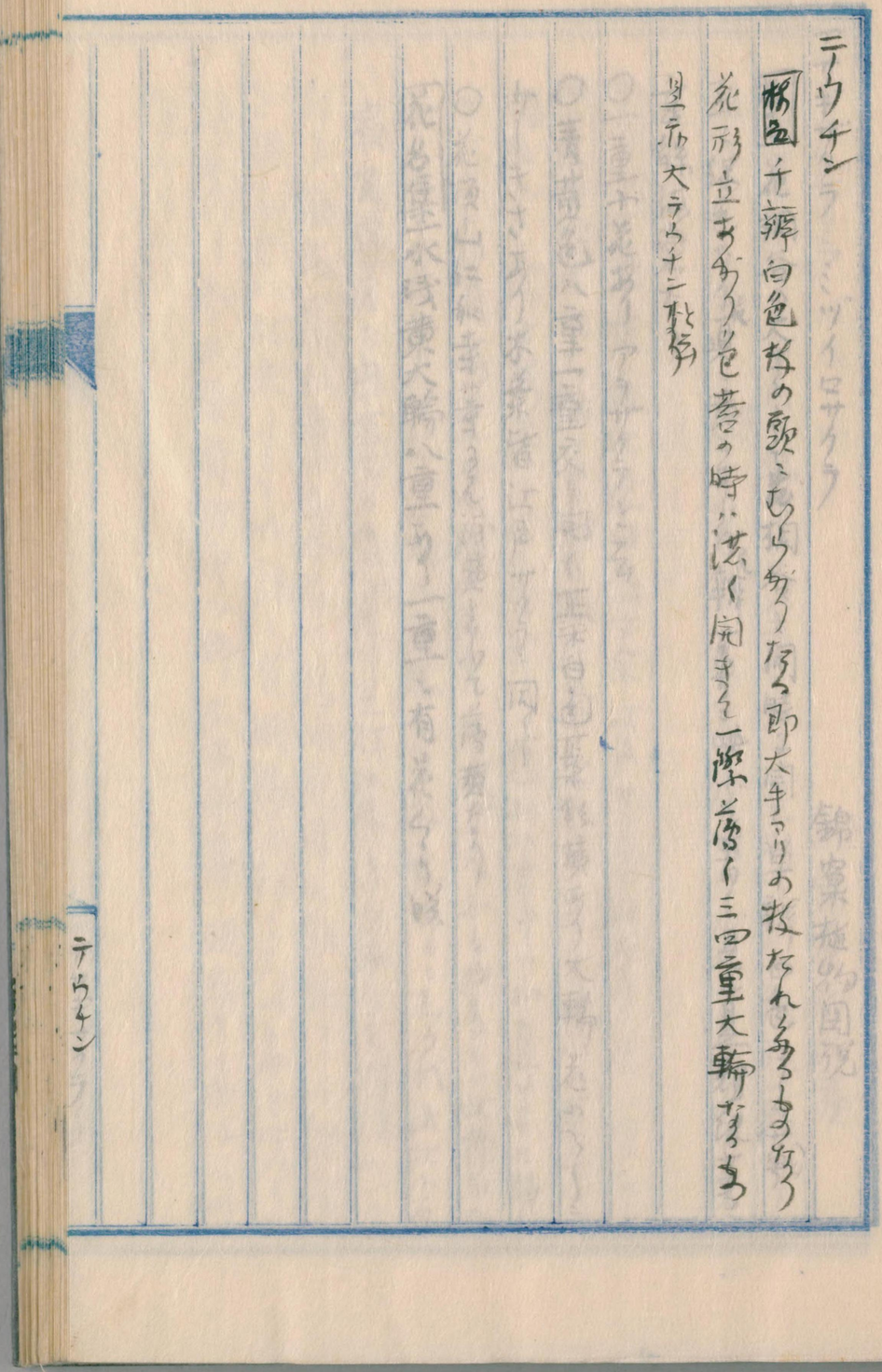
テマリサクラ

錦窠植物図説

【[illegible]】千辨ヨリ少し薄赤く小輪なり　この大輪なるものを糸括（イトクヽリ）とし
即糸クヽリの種類也
活所翁横禅日奥州より出づる其形毬の如し花白少し紅之花関くを
諸花より遅し
【三草本志】純白テマリの如くして大なるを大テマリと云
【花名集】色赤ミありて多く厚く咲くして下に大輪に本に花ありて
くさるなし



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号　特7-66
ガラス使用

アサギザクラ　ミヅイロサクラ

錦窠植物図説

[稚色] 花桐谷の大さにして花桐谷と同時に開く単瓣白色にして蕚ヘリ至て緑色なり花真に黄にあらず花瓣蕚に映じて青く見ユ是即緑蕚

無絲海棠なり

○一重小花あり　アヲザクラと云

○青黄色八重一重交り開く葉白色葉粉黄あり大輪花のへりに

かしきさあり木葉皆江戸サクラに同じ

○花頂山仁和寺葉にて浅黄とかして薄黄なり

[花名集] 水浅黄大輪八重あり一重も有花くりり咲



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

アリアケザクラ

錦葉花我屋

[illegible]單弁にして白色大輪なり又八重もあり是則江戸の種類一物なり
但江戸より今少し紅(アカシ)さわだ赤く光ありて有明けがたの月の色によるべ
て名とす

[三草木花] 重葉紅邊白大サ寸余江戸サクラに似たり

[六々樓種類] 有明大輪の白花蒼微紅暈八重あり單あり惣て莖長く
雨過てちらず諸樓の終に咲くものなり後れ以日年に初夏にそれ殘れ
りよりて卯月樓葉を入樓の名あり殘樓に及ぶもの多くは此種なれ
ともみな花席なれて花形もサ輪なり故愛あるに足らず浅北小原
寂光院にては此八重なるものをさして江の樓といひ居らるなり

ア

アカツキザクラ　暁桜、明星

錦窠哲物、図説

[桜図]重瓣ニシテ大輪ニ至ル大なるものハ二寸余にあり花瓣廣く薄し莖細く長し莖短し色楊貴妃ニ同ほんのりと赤きこゝろ暁きとつけ又明星桜ともいふ

○六々桜種類云大輪中のまゝに廣大なるもの白花蒼微紅を帯ル重あり一重あり葉みしかし大なるものハ花のまゝより二寸餘ニ過たりこの花後水尾帝の勅銘ニシテ明星桜と称して洞中ニ有けるゝしあり其ハ有栖川宮の名木ニシテ靈元法皇の御製ニ賜ひしとし聞へたりと天明の火のおもて焼失ニ居りたれ其ハ同種ニ有ル

考原覽

○六々桜種類云中輪の千重（本のまゝ）かきねあつくして紅ふり能桜の一名あり鞍馬口閑臥菴の名木なり後水尾帝の勅誕ニシテ御製を賜ふ今ハ枯失しこれの跡ニ有明桜を植てたいつ名をゆつりて誤ゆれり今太秦廣隆寺小野立本寺等ニ現存すと其ニこの種なるべし

アカツキサクラ

アハサクラ

錦窠植物図説

外部二重八弁廣く凹なり其余の内部は頭尖り菊の如し

アハサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ア

アカメザクラ

古今要覧稿抄 堀田家記云延享四年三月十日諸草屋敷
ニ有之候赤芽樓藪主行頭ヲ以テ獻上仕ル處其地後右
樓根共獻上ル樓大岡出雲守忠光ヲ以テ清沙汰有之清座
掛倉地仁左衛門見分之所古木之事故植替根付ル程難計
旨依之蘖取木ニ可致由ヨリ同年十一月二日徒植木二ツ下役中村
彌八罷越蘖二十本取分罷歸寶曆十年九月十八日倉地
仁左衛門見分之上右樓蘖二本取罷歸申ル

アカメ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

嵐山樓

古今要覧 嵐山樓もと嵐山の種なるを以て名を得しなるべし其花單瓣白色あらし淡紅を帯一莖二三花ありまたは即山樓の一種く嵐山の樓ハ亀山院芳野の山樓を移し植させられしといへハよしの、花と同しかるへ紀々今存せる樓ハ芳野の花とハ異なり風土のよりてかはれるなり歟古植千本樓於嵐山 雍州府志 といへとも今現存するハさほど多からねといへり

アラシヤマ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

サカテザクラ

錦窠梅村図説

【楼品】逆手楼ハ芝山と同種なり單辨ニて花形大ヶ全く芝山ニ同ド但辨色あるを異とす芝山ハ色白し逆手ハ色薄赤し近く見れば芝山と同ド遠く望名に逆手ハ辨色あり見を以て分ちとす然れども六弁の内一片狂ひありて帆を立てたる如きもあり故ニ帆立楼ヨリ或ハ帆立ハ逆手かしつの違ひなり只色を以て分つ六辨の内一弁よぢれなる故俗ニ此一品を逆手と云



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

サ

サツマヒザクラ　薩摩緋桜

錦窠植物図説

【桜色】薩摩ヽ緋桜と云ふあり名ハ同く花形大ニ異なり薩摩鹿島より琉球へ往く道ニ道の島と云所ニあり花ハ正月上元ニ最盛なり冬より芽を生ず花重弁和桜ニ似て甚紅し葉も樹も皮も全く桜ニ異なるを其なしこの種東山泉涌寺悲田院ニあり然れども花未ツカ貼是暖國の木故京師の寒ニ地へ移したる故樹長せずるもなり京師の緋桜と別なり

サツマヒサクラ

サ

サイギヤウザクラ　西行様

白ゝ青のうつ多いあり並大小長短あり

錦窠桂路図説

サイギヤウサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

サ

サコンノサクラ

古今要覧稿抄 左近の桜といふは紫宸殿の前東の方にあり平安城草創の時よりの樹といへり桓武天皇の御時より有しなるべし天徳の火にやけたるは草創よりの木なりや其後康保元年十一月植られしはその年に枯しにやその二年正月植られたるは二月花宴せさせ給ひしといへりその後度々焼て堀川院の御時に植られし樹順徳院の御時までは残りたりしと見えし同上左近衛大将桜の東に列まへきし延喜儀式記さたあられしよう見桜かられも近衛大将これをうゑる草藻塩草などはありしにやされかく度々の火にやけし桜を宣なかりし時に一重ありし時ある本此桜を兼好法師は必一重なるべきしといひたり世に南殿といふはもとこの左近の桜あるが故にしか名付たりとぞ伝へたれど八重なりし時も有しなれしここに載たるは以前まで法師の桜なりや定かならざるなれども其の一重なるし折まうつしたりし禅尼本次に出せるもおなしくはの桜の種なりしかうし植たりし人の心のままに紫宸殿左近桜本草左近桜と名付たるさままにて同しく左近の

桜なりと伝へ植られし折ふしそその樹は同しからざるて
文武人日嵯峨清涼寺地蔵堂の前に桜あり　この桜を平安桜と呼
べり時平公の植られし桜なりと云又貞信公のうゑられしなりとも
いへりしかれども此花を写せしものか其花を見ざれば決しがたし
佐藤成裕（平三郎号中陵戯人）曰この平安右近桜と称するものの種なる人の所
重せしところ古への絶品なるやしからば南都へ移し植れば瓣大にし
て一朶七八茎ほどなる北地に植れば花小なりといへども色よし



サイギヤウザクラ

［古今要覧］西行桜単瓣粉紅山桜の大輪なるものにて西行桜と
称するもの所々にありて花形も一様ならず是は何のところの種なるや
未た詳ならず



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号　特7-66
ガラス使用

ザンセツザクラ

古今要覧 残雪樓 怡顔齋樓品ニ所謂雪山樓と形状彷彿としたれど花蹊ニつくを異とし佐藤成裕曰此樓鎮西の處々之を見る日向高千穂の山中ニあるところへ是なり花時爛熳なれとも賞する人もなし然れとも其山中ニ霧島明神の社あり社前の額ニ振上げし斧もとゞむる雪樓といふ句を見れ人山樵も心なきとも知らし傳へ聞大隅の樓島ハ上世樓あり山岩列石の間ニ秀出と今ハ更ニ一花の開くなし其侯の歌ニ

月雪のあるまをのこゝかも樓しまなる花咲ゆふへあけ国の此歌

近衛龍山公の歌なりと土俗ハいひつたふるよし



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

キリガヤツ、クルマガヘシ

錦窠植物図説

惣名 桜品ハ（一名 八重一重 一名車返）花中第一品なり一枚の中に八重多く一重ハ少し（八重と一重と雑り咲く也）江戸ニ似
て色薄し江戸ハ皆八重なり桐谷ハ八重一重相雑ヘ元と此木鎌
倉桐谷より出つ故に名つく或故老曰此花を一人ハ八重なりと云又一人ハ
一重なりと云争論決せずして二人車を返して見るに一本に八重一重
交り咲き故に名く原両義共合し然因て車返しと号す桜中第一之
江戸桜も此桐谷の変なり桐谷ハ落花余多なくして散がたの心よりも
すなわち江戸ハ花多からねとも散れは枝にしほみつき見ゆ桐谷
の勝れたるゆゑなり
浅所翁も桜の第一として白色微し紅あり茎最も長しと云り
又泉州界慈恩寺の地内に車返と云桜あり此品なるべし
○錦永曰津ノ国藍（アイ）村と云所の田の中に大木一株あり花桐谷の八
重なり年毎に一重ニ減して咲八年目毎に一重ニかへり九年目毎
に元の八重となる又見たる八重一重と云也同種数ありて同名別

物あり

三草木志もと鎌倉の霧ヵ谷より出る初め粉紅後雪白辨大小長短交る

○大峯寂光寺の中にある桐ヶ谷と云ある香より アサギザクラと云

粉あり

○活所樓譜云桐谷為樓第一色白而微紅莖長原出鎌倉桐谷

○六々樓種類云八重一重樓桐谷鎌倉樓車還妹ヶ樓此等の種何れもおなじものなれ大輪の白花苔紅暈ありて稀々微紅にして濃紅藥の花も有又花辨細くられたるもあり何れもその田舎かたる事詰樓第一とす一樓ニ八重一重まじり咲花いまゝ爛熳せるを中より一重のものかたるその根情たくはなし

キ

キリンザクラ、マルバサクラ四葩樓、傳香樓、錦巣樓地図説

遅樓あり弁細長八九あり中細弁廿あり落紅後白弁仄円し

キリンザクラ

キ

キンリユウジサクラ　金龍寺サクラ

錦窠老人閑説

三月上旬ニ咲弁細長白花ヲシテ辺水紅

○一種重葉ニ乱咲ものあり菊様ニ似テ少く甚長マサクラと云

○古今要覧　佐藤成裕曰金龍寺と名つくる義未だ詳ならず大和の金龍寺の様ハ是と同しからず益軒か花譜ニ摂津國金龍寺ニ小様と云花十餘株あり八重ニて其葩ほそく虎の尾の花ニ似なり京都の伊勢様と同時ニ盛なりといふ又案ゐニ應州府云　金龍寺有老松大四圍枝垂地其老幹屈曲少見其類者也本根中間有寄生之櫻其大過一圍是この様ハ別品なり但し花ハ如此の花歟未だ決しかたし　昔予の友人難波の邊ニ遊て一花を壓し来りて名を問ふ戯ニ命して菊蘂と號せしもの即此花なりといへり

キンリユウジサクラ

キ

キリツボサクラ　二重樓

葉大花亦大徑一寸四五分

錦嶺越路図説

キリツボサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ギ

## 玉兎樓

古今宴覧 佐藤成裕曰玉兎の名甚賞す屋しき予の園中にも一株あり晩風を経るとき八白に変ず元山樓の変種なり或人殿樓と同品なりとも予に恵む然れども此樓毒蟲多く生ず植るに大に厭ひあり按ずに菓好の徒然艸に樓まるすすきを思ひのつきたるにもつかしとゝいへり思ふにこれ然るかしとゝいへり

ギヨクト

キンジサクラ　金絲桜

古今要覧　佐藤成裕曰此花ハ昔隅田川の綾瀬の邊にあり樹母翁一枝を折来て接して宮戸川に名付て予に請れり予亦一枝を乞ふて接生長せしゝ列以風の為折れて今ハ存せず



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

ユキヤマサクラ　雪山桜

【桜品】中輪にして白色なるを雪の如し但花サクラに全く同じ誤て

たウバザクラとまちがふものなり

ユキヤマサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ユフガスミザクラ

古今要覧 佐藤成裕曰此花常燈(州)隨龍の邊まゝあり久慈郡旅野村に旗揚あり古木は枯て今はその孫木を植るもやゝ此種にして稀に花葉に旗を出す恐くは別種なりん相似なるを以て其蹤を補ふ歟是皆郷老の口傳にして信しかたし旗揚は怡顔齋の揚名にみへたり



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66
ガラス使用

メサクラ　アメザクラ　ヒメコザクラ　コカバザクラ　錦窠越物図説

葉巾一寸斗長二寸斗面脊淡青不対葉茎紅之木材赤色大本あり
春白花咲山樹の花の如くにたれ下り咲実於実の如く生ず青色
熟ハ淡赤色之(蘭村産)
葉のへり弱刺あり葉先細し葉山樹同じ
カハザクラの一種まで皮を剥て曲物をとぶる大木あり皮樹赤
色薄皮厚皮の二種あり皮枯る時も面白しと裏栗色白き内
に栗色の島筋ありてこれを裂けば薄く葉重ましへげる

メサクラ

ミユキサクラ

錦窠植物図説

三草木志 徑リ二寸ニ近し形有明樹ニ似て花大なり初終色不赤粉紅内辨さゝ辨多くして昔奈良の都の時或家ニこの樹を植て深く愛賞其時ニひそかに行幸あり是よりして行幸樹と名号くとゝ

ミユキサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ミカヘリザクラ、フタミザクラ

逢サクラあり細辨多く亂れ咲花の寸葉あり

錦窠花の図説

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ミヤマガクラレ

錦案楚辭圖説

○水紅後白辨細辨頭ホニ作リ

○[吉今雪覚]深山隠棲 佐藤成裕曰此花絶品なれども別ニ名號の考ふへ花なし樹母翁ハ輩もたゞ八重のよれ一重のよれと云て名目を下さゞる此品類尤多けれハ迷ひ易紀故ニ蘭山ハ花鑑ニ一品を實うへニすれハ色も香もかき墊て名こそまかひやすけれと實ニ此類のことゝ

ミヤマガクラレ

ミヨシノサクラ

六々櫻種類云中輪の單にして白花蒼又たゞく緑葉ゆゑ緑苞緑葉なり櫻町帝の勅命にて禁中にありけるが天明の火の爲に燒失志なりいの家たゝへを拝領して洛西桜の宮のかゝはらに橘木葉の象にうつし起て現存せり

ミヨシノ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ミヤマサクラ　深山様

[古今要覧] 深山様単辨にしてかしくにほひあり 佐藤成裕曰出羽國の山野にまゝ見あり その木形ハ山様にして花少し色あり一重なり深山に名るハ尤當なり陸奥の山にハ大木にあれ日あり往々板にひきて剞劂の用にあつ最上材なりといへり



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66
ガラス使用

シダレサクライトサクラ

櫻品 彼岸ト一時ニ開ク藝花園ニ地接ツギト云フモノアリ花フッサリトシテ薄色ナリ攝津國池田木コノ道ノ邊ヨリ来ルハイロ色京地ニウツシ老木ニナレバ京地ノ糸櫻ト同事ナリ、ヒガン櫻ト花全ク同シ但枝梗柔軟ニシテ柳枝ノ如シ夫木集ニ

おもし来むしたり櫻の枝ほそみ
柳の糸にむすほれこれり

往昔黄蘗ノ唐僧ニ訪問セシニ垂枝海棠ノ名海棠ノ譜ニ出ツ洛陽花木記ニ垂絲海棠一名輭條ト云ヘリ今ノ糸櫻ノ形状ニ合セリ然レ乍二如亭群芳譜垂絲海棠ノ下ニ西府海棠ヲ出シテ枝莖ヤヽ堅シトイヘリ然レ乍西府海棠ハ今ノ櫻ニ似タリ垂枝トイフモ枝ノ垂ルヽヲ云ト見エタリ然レバ垂糸ハ今ノ惣名ニシテ獨糸櫻ヲサスニ非ズ唐僧タマタマ

シダレサクラ

糸櫻ヲサシテ無絞ト云ヒシヨリ習フテ察セザルナリ
絞ハ縠條ニアラズ海南雜史ニ掲心ニ掌（ヤブキ）棣ノ條ニ無
絲海棠ニ棣棠花ノ似タルトアルトキハ今ノ櫻ノ中ノ
江戸桐谷（キリガヤ）伊勢寺ヲサス事ハ明ナリ畢竟今ノ櫻ハ海棠
ノ一種ニソ櫻ニアラズ櫻ハ即櫻桃ニシテユスラナリ
無絲ト類自別ナリ又按スルニ此ノ糸櫻是ナリ又按スルニ
別物ナリ一種ハ古来挿スル行厨集花木門ニ無絲海棠ノ條ニ云、吐糸向下花ハ似地
棠花ト有今リ櫻皆莖長ク下ヘ無ル吐糸枝ノシタヾル
事ニアラズ海棠譜及四機活法ニ云ヘル無絲海棠ト云
モノハ今ノ絲サクラナリ行厨集ニ云ヘルモノハ諸ノ
櫻ノ事タルコト分明ナリ
近世大徳覚印問之唐僧ニタヽ言無絲海棠ハ諸櫻ノ通稱
也重葉無糸ハ重櫻ノコト也是行厨集ノ説ト合セリ敬
義ノ櫻并モ誤テ日本ノ櫻桃ヲ以テ日本ノ櫻トセリ櫻ハ即櫻

桃ニシテ櫻本ヨリ櫻ニ非ザルコトヲシラズ櫻ハ日本私ニ
名付ル所ニノ中華ノ櫻ニ非ザル也世人日本ニ云ヘル
所ノ櫻ハ諸越ニアル事分明ナラズトイヘ尼左ニアラ
ズ全有事分明ナリ携李仲遵王路花史曰沈立海棠記ニ
江淅ノ間又有一種柔枝長蒂頼色浅紅無英向下謂之無
絲海棠又祝穆事文類聚無絲海棠梅聖喩要便呉同
蜀須（青）線海棠臙脂色欲滴紫蘤蒂何長夜雨偏宜著春風
一任狂（たぶ）當時杜子美吟偏獨相忘同楊廷秀無波可
照底須窺與耕爭嬌也學無破曉驚晴天有意坐香新曙一
鉤斜
○活所翁花譜曰其花姿櫻ト一時ニ開ク枝柳ノ如シ花
ノヒガンサクラノ如シヒガンサクラヨリ堂トノ糸櫻ヲ
櫻則ヒガント同種ナリ
○怡顔齋又曰藝花園ニ千辨糸櫻ト云モノアリ是歟條
海棠ナリ元来無絲ト無枝ト無絲ハ同音ナル故世人
シタレサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

是ニ惑フ既ニ貝原篤信ナドモ垂絲ヲ糸櫻ト察セシハ非ナリ

○銛永曰又吉野シダレト云フモノアリ花中輪ニシテ八重ナリ葉モ木モ常ノ山櫻ニ等シクシダルヽ事糸櫻ノ如シ

又「大シダレ」「小シダレ」アリ「大シダレ」ハ全体ノ木コハシ「小シダレ」ハ柳柔カニシテ柳ノ如ク細クシナヤカニ垂ルヽモノナリ

○垂絲海棠　和名イトザクラ　汝南圃史

樹高大枝條長軟ニシテ垂ルヽヲ緑卿ノ如シ春時花ヲ開ク長蒂五出単葉淡紅色愛観スルニ堪ヘタリ花謝シテ後葉ヲ生ズ實ヲ結ブ丁小圓紅色形鼓槌ニ類ス共ニ掃帚海棠ニ同ジ凡ソ櫻ノ名色甚ダ多シ實ニ本邦春樹ノ榮観コレニ過タルハナシ固ヨリ海棠ノ品類ニ屬セズトイヘトモ今暫ク其名ヲ借テコレヲ解ス

垂絲櫻　ヒガンザクラより花やゝおそし是比ガン櫻の志ぶれたるにて一類なり故ニ比ガン櫻の臺につぎてよしたゞの櫻の臺につげバ長せず枯やすし濕地にハおしゝめぐりに木なきがよし根下の草を去るべし此樹庭中にさきてたるいと愛玩すべし

いとさくら　花譜

圖　永暦元年七月清輔朝臣家歌合さくら　法橋顕昭

わきもこかたちねのやまのいとさくら

むすひおきたる花かとそ見る

糸櫻　城下士人の宅往々多し箱根妙徳寺のいと櫻其木尤大なり彼岸櫻と一類也彼岸櫻の臺につぎハ生長しやすし海棠の類にもあらされとも　もろこしに所謂垂絲海棠といふ物これなるや

續風土記

ジウグワツサクラ

錦窠植物図説

水戸市人慶々種之村家亦稀有之木高不過七八尺葉長二三寸濶一寸許面緑皆浅而互生十月開小白花形似櫻花 常陸物産志十三

ジウグワツサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

三

三バヤマザクラ　碧玉樹

錦窠花房図説

〔樓通〕單瓣大輪白色六瓣なり（五瓣のものハトバザクラ）藝花園云單瓣大輪白色のものを鷲ノ尾と云芝山ハ相似て重瓣なりと云つるにより疑はしく所々部問せしに芝山鷲ノ尾全く殊にして二名を見たりと云此樹芝山家より出たるものとも又芝山に多く生ずるものとも云但八重とも一章とも云ゴトし花の咲きてのりより葉出て葉出揃へば散なり カイダウサクラの花の無れるものなり（按ニ芝山に似て大輪なるものを碧玉と名付一説にて変種なるべし）

〔古今要覧稿抄〕六々樓種類并題詠曰芝山樓大輪のひとへの白花葩五瓣六瓣入まりして蒼微紅を帯ふ今俗に帆立帆掛子とゝいへるも此種なるべし　畢竟花瓣の狂いなれば云れたる葩ハ諸樓とも五瓣あれば別に名付ゝ及ばれ其ハ冷泉家の名木ゝ諸樓といふも此種の上品なるをもて名付たるとみえたり寫生の根の名に似ましてこれ花の本高く口ほへて芝の樓

三バヤマザクラ

シロザクラ　ミヤマザクラ

錦窠花物図説

一樓品　山樓ニ似テ色潔白ナリ巣一重ヲ生テ弁一廣ク丸シ莖葉共ニ青シ花色雪山樓ニ云ヒ物ナリ其ハ勝れテ白シ これ芳野の山樓と云ヒ物ナリ

○シロザクラ　木曽岩ノ郷　サハフサギ　木曽末川　サクラ　木曽西野

小輪ヲ生テ花ヒ小ニ三輪つくもの元　西野土橋といふ所の森にあり

○日光山中其他諸深山及豊後油布山嶽峯にあり

シロサクラ

三

三ホガマ

[illegible]重辨まして花と葉と雜り出つるに小輪まして花の形しぼみなる如し花辨に皺ある故しぼみなる樣に見ゆ牡丹の遠山と云ふものに同ト花サし葉ゑゑ葉ハサし葉まで よきと云ふ名づく

鈍永云繁花國云

○中白千辨まして淡紅を帶び嫩葉微黄まして絞り色也甚美也

○六々櫻種類云鹽竈櫻大輪の八重まして白花苔微紅暈かさね厚く花辨に志もありて花多くつく葉に黄葉をましくて美なるものに陸奥の一宮鹽竈明神の祠下に古樹ある眞の名品なり今祿櫻と云ふもの此種に似たり

三ホガマ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

シ

ミラキクサクラ　ヤヘギクサクラ

三月節後開く葉並細く形八重菊花の如し

錦葉植物図説

ミラギクサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

シ

ミラクモサクラ

錦窠桂郎図説

花形モミヂサクラの如きて小さく経り寸許二三重ニ咲く白



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

ヒガンサクラ　コハナザクラ　小サクラ

錦窠都尉図説

貝原翁曰ヒガンザクラをコザクラと云ハ非ス コサクラは兒ザクラなりと云

【桜品】開くる最早し春分の節に開くこれ海棠の譜に載る所の帚子海棠なるん枝の頭に叢り生ず地層枝の如き花甚た開このぶして単なり

【草木志】花を陰干し醤油に浸ぬを一昼夜にして出し日に乾し未とし一切毒蟲の螫しなるに傳べし即時に疼を去て愈ゆ

【大和本艸巻十二】其花櫻花よりいまして櫻に先立て早く開くを旬余日花開く時葉未生櫻より小樹なり花も小也櫻の類也

○常のサクラと材異なり木の肌ぬんめりとして板木に与のごとく質密なるぬん



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

シ

シグレザクラ

錦嶺植物図説

花名集 八重色あるて大輪まるに花の露おらしくと花咲而し花の露

木下に落るゝ名木といふ

シグレ

き

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

シロタヘサクラ

[古今要覧稿抄] 白妙桜ハ楊貴妃の種類にして重瓣紅の
蕾ゟ花なり葉色青し所載詳ならす但落紅色なるを白
妙と名付しハ稱なるへきなり

ジウクワツサクラ

古今要覧 十月桜脇坂家園中の桜なり十月下浣再び花を開く色淡紅なり或曰此花鎮西にはまゝあり秋此末より冬の初め迄花を放川三月も時を失なはず開く元来山桜の一種にして十月ひらくは狂花なりと云案るに是狂花にあらず狂花は諸木ともにひらけともかならず年毎に開くも此にあらず是一種の桜なり又或園中かんなり桜といふは類なき珍花にて十月より花を開き正月迄盛也其冬開く桜古来よりあり履中天皇三年十月盤余の市磯池に雨枝船をうかべて遊び給ひしか御盞に時ならぬ桜の花ちりてうかべり此花いつくより土里来りけるそとあり今此ハ長眞膽連花を尋ねありきしか掖上の室山より桜を得て奉り焚かいとめつらしき事に興せさせ叡感ましくて雅桜を宮の名にそ君召け日本紀

ジウグツ

ジウグワツザクラ

[吉ノ雪花] 此花も又十月桜と称す是全く彼岸桜の一種にして形容彼岸桜に異なれども花戸にまゝ可見活花に切出すなり八月頃より花を開く故に八月桜とも云り後れて十月盛に開くもよろし

ジウグワツ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

シ

シブヤ　コンワウザクラ　澁谷金王桜

古今要覧　澁谷金王桜ハ澁谷金王ハ幡宮境内ニあり相傳ヘテ左馬頭義朝朝臣の舍人澁谷金王丸の植し桜なりといへり

花壇金書なし　花ハ一重の大輪なりといへり　同上　この花とハおなしからすこの花ハ後に人の植しなるへし　重辨ましてよりあり　色濃く大ようなれし　樹母翁是を賞して関東の名花なりといへり　三花手拓

これをこゝろし　植んとて枝をきやし接木にする人あきも多く長生せずしされハ他にすくなし

花壇金書云　金王桜澁谷金王丸の植し桜の種か一重大輪云々

三ブヤ　コンワウ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

備後三郎廷詩様

[古今要覧稿抄] 太平記ニ美作國院座後硯硎天皇のおもひ
まし事ハ法宮の庭ニ大なる様の有けるを押削て大文字一句
の詩をそ書かりける

天莫空勾踐　時非無范蠡

とみえたる様なり少様の類なるべし

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

ヒトキノサクラ　イヘサクラ

千瓣葉白花瓣端少し紫径すぢかり心白蕊

錦窠抱野図後



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

ヒサクラ

錦窠植物図譜

【櫻譜】或ハ火櫻ニ作る緋ハ火ハ赤き義ニ千瓣小輪にして莖長く垂下る不開ときハ甚だ紅き也開けハ淡紅なり紫の葉ニ甚似なり又見ニ似て白サし紅暈あるものと揚貴妃と云蓋し一類ニ種ニ

夫木集　（藝花図）

秋をこそ燒とは見しる山の端ハしうせくれなるの火さくらの花　躬恒

同　梓ニ春の山へニけふりたちもゆとも見えぬ火さくらはを邪　信実

新六部　夕附日うつろふ色やまさるらん高根にたてる火櫻のはな　光俊

【三草木志】ミワ山サクラ

和州三輪より出ツ或云サツマの産なりと紅花のヤマサクラヒガン二十日ばかり

前ニ咲徑八九分深紅　一名ウハ櫻と云

□前嶽薩州より来る葉宝林寺ニ似て硬長二月ニ深紅色の重瓣の花を開く花の莖常のさくらなりサし長花未だ開らかなる時甚鋒色已ニ開く時は微淡なり薩州より琉球ニ濃なる間路の島ニ多くありと云く

ヒサクラ

ヒトハザクラ

古今要覽稿抄 一葉櫻ハ粉紅重瓣ニシテ莖長ク垂上品ノ櫻ナリアル人曰此櫻牛島長命寺ニアリトイヘリ次ニ出セルモ一葉櫻ノ變種ナルヲ以テ變種一葉ト稱ス佐藤成裕曰關東ノ寺院ニ稀ニ之ヲ見ル世田谷豪德寺ノ花全ク是ト同ジ樹母勇曾テ名ケテ富士煙トイフモノ此種ナリ

ヒトハ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

ヒヨドリザクラ

[古今要覧] 鵯桜千辨ましゝ其色紅紫莖長くなれて上品の花なり是も緋桜の一種なるべし 佐藤成裕曰此花上代の珍花にして近時至て稀なる花なり花壇前書云鵯桜むらまれ千葉大輪くゝりて長くさかゝやいへり

ヒヨドリ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66

ガラス使用

ヒトマルザクラ

古今雪覧 人丸樓八重の中輪まして色浅紅花茎ことに長く垂れて上品の樓あり 或人曰此花茎長くおれて葉と相對せるゝ花簇り垂て遠く望めハ雲のおふ引かことし春のあしたせ芳野の山桃樓ハ人麿が心にハ松かとのみなんおほへける 古今集 名つけしものなり

ヒトマル

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66

ガラス使用

ビジンサクラ

[亭要覧] 美人桜 單瓣粉紅花形よくしほうし花なれど世俗に容顔美麗なるを桜の一重花ひとへに笑めるまゝにしかなぞいふ此花を美人桜と呼しあるべし是も赤芽桜の種類なり

ある人の曰甲府の藤〻下妻といふ花あり形狀全く此花と一般之と云



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

モニジユサクラ　文珠樓　奥山樓

錦葉植物図説

深山中にありて三月下旬に咲白花瓣円く廣し徑寸ばかり此小白花
なり花少し散る事早し山樓の一種なり古へ金澤八木の文珠樓
といふ事ハ此樓又今金澤に植る文珠樓ハ千葉松紅を近頃近
称名寺の門外にあり故に千ヱノモニジユサクラとも呼ぶといふ又一
説に奥山樓ハ深山に生して……の如く山深く奥の遠きを知るへ
智書の文珠の如き故に名く



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

セウゲツザクラ　照月樓

古今要覧　照月是緋樓の一種にして色鮮紅なり今花戸にて無響川と名つけ貨（本マヽ）るもの即是なりとそ



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

セウクン

錦窠 楚兵国後

[illegible]中輪よりハ大すこし単辭あり辭たゞ廣く厚く莖長し揚
貴妃よりハ少し淡く艶美なり
古老曰昔桜を好みし人或家に秘藏せしを頻に望みしかど
何ありとかへ[illegible]せんとつひ[illegible]れ左あらぶん秘藏の桜一株とかく
なんと約し既に送る日本主名殘を惜み王照君故国へ送られ
るすとゐひ出しこれ即此名をつけ遣せしけるとぞ



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

セ

セキチクサクラ

錦窠植物図院

鳳尾桜の二重に咲くまなり唯千葉花と二重花よ差あるのみにて

二種一物なり

セキチクサクラ

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

スミゾメザクラ

[寄雲館稿]山城名勝志云墨染寺前庭有二根樹一株一呼二墨染桜一

寶物集云草木心なりといへともの哀を忘れはこそ其花墨

そめと咲けるとあり今々深草々墨染桜とをあり



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

スマ　須磨

古今要覧　佐藤成裕曰此花人の珍重するところ昔ハ芳野の八重と云樹母翁名つけて初瀬といへり北條九代記に北條政村の和歌の御會に芳野初瀬の花の梢を嘯とあるに因てかく名つけたるなるべし按ずに野必大が食鑑に吉野之多須磨之孤即是世人所編識とあるは須磨も名なりし嘗て人あり西遊して一花をこゝ來りて予に於て行り即花容若木樓なり兵庫名所記に若木樓須磨寺の前にありひかる源氏の君須磨に居給ふ時假屋に植へし木なりと源氏の巻にいへる植し若木のさくらはのかれ咲そめて空のけしきうらかなりとあるも弘貞曰源氏は作もの語なりとも其れになるべし名付しなるべし実なりともあらじ　定家卿の歌に樓ちかなかせの若木ふり捨て須磨の関屋のあれ埋むらむ



国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

独樵夜

[花名自集] 野木山桜の花葉似たりしかれて花咲花々ヒガン桜の如くまた一重まだらりと咲く名斗まわ有花白くかし和ゝ可し

彼岸桜はつぐん

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

栖霞樓

古今要覽稿曰 栖霞樓ハ花形少樓ニ似テ單瓣純白ニ
莖ニ枝あるを異なりとも葉なしも愛古人ハ花なり

栖霞樓

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

百枚楼

[illegible]

百枚楼 粉紅にして重ねめして莖長く花多く群りて千越楼の樽類なるべし 佐藤成裕曰百枚楼の名は未だ考へ得ず昔し或は楼品を文しか吾妻路と云花ゆゑ今深く考ふるに形容されと一般なり今は名する所以もありしか今は[illegible]を一義を覚えず若今此花あらんに一枚を折て燕寢に挿ハ花の容も席を醞むべし

百枚

粉瓣樓

古今要覧 佐藤成裕曰此花薩摩の近まゝあり山樓にして色よし苞の内紅色を帶ふ満開に至て風韻ある故に包ひ樓と云益軒か花譜に一重樓品類粉種あり其中に包さくら有香ありと以へるに是なりとゝ

粉瓣

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用

映日様

古今要覧　映日様重辨の佳品にして尤まれなるものなり　或曰昔麻布廣尾の寺院にあり當時花を好む輩此類の花をユフ夕影と称せり甚遅く開く花にて秋八月他事あれに枝を接して明春即花をひらくこの類の木はあまり大木にはならぬものなり

映日

玉王樓

古今要覧 玉王樓單瓣珠紅山樓の種なるべし 佐藤成
裕曰此花薩州の村田氏吉野の私第ニ見あり在原と呼べり按ニ
雍州府志云惟喬親王始閑居山崎南水無瀬吟詩詠歌以自遣
毎歳賞櫻花一日游河州交野奈疑佐院玩櫻花在原業行從
行賦和歌 この文ゝ出なる名なるべし

玉王樓

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』 請求記号 特7-66
ガラス使用

秋色樓

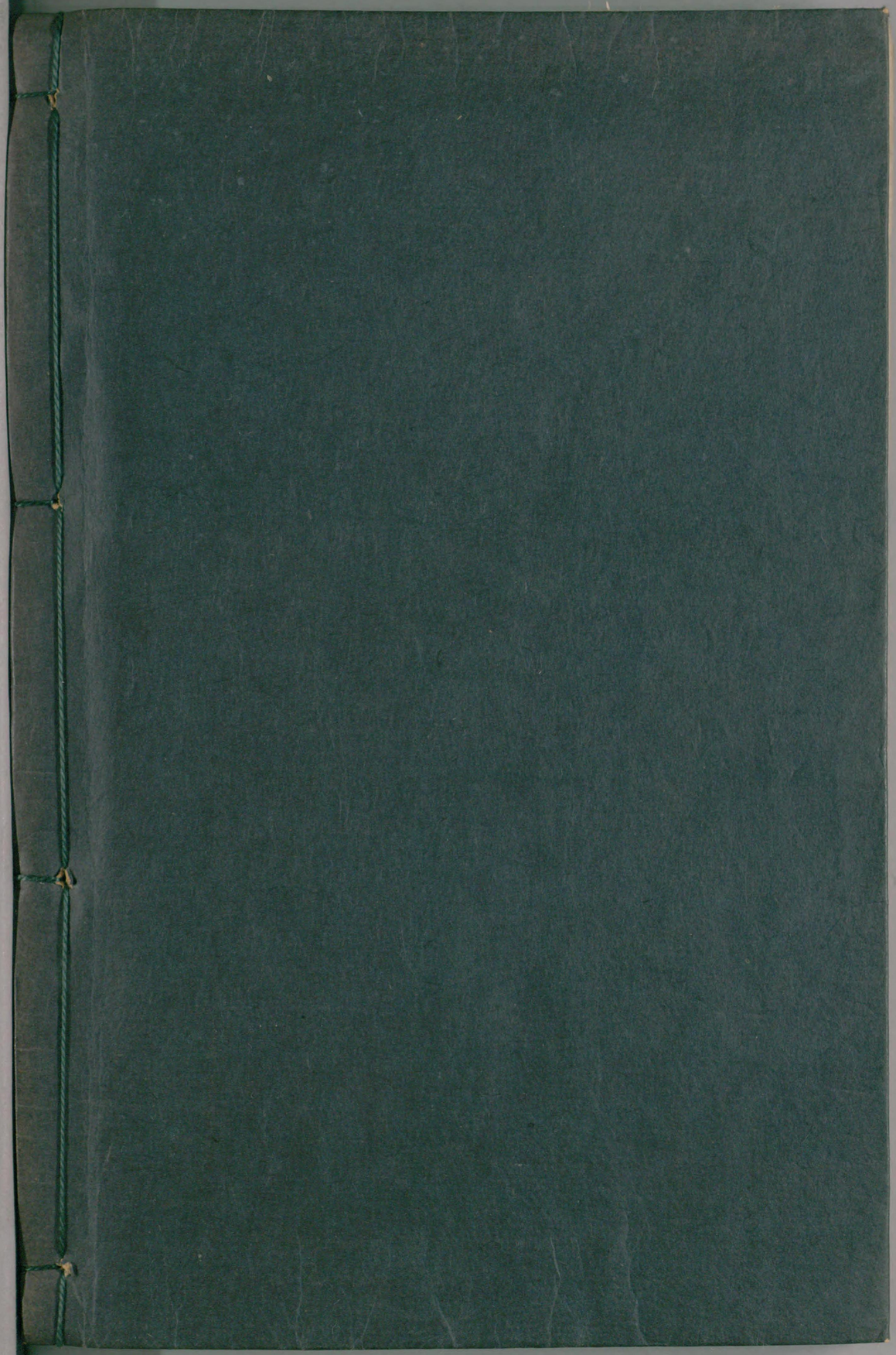
[古今要覽] 秋色樓上野清水觀音堂の側にあり此類多紀色香ありて人の躍をとゝむる者多く江戸年中行事云秋色樓ハ清水御供所のかたそら立春より六十日比なりしこと云々

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66
ガラス使用

特 7
66

国立国会図書館　タイトル『櫻譜』　請求記号 特7-66

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『櫻譜』　請求記号　特7-66

ガラス使用